

地質標本館イベント「一点解説」開催報告

福田 和幸¹・雨澤 勇太²・小野 誠太郎³・池永 有弥²・瀬口 寛樹¹

1. はじめに

地質調査総合センター（以下、GSJ）地質標本館では、GSJの研究成果発信や一般地学・地球科学を一般の方々にも広く分かりやすく伝えるアウトリーチ活動を行っており、そのアウトリーチ活動の一つとして、毎年定期的に「地質標本館ガイドツアー」（以下、「ガイドツアー」）を開催しています。「ガイドツアー」とは、専門の研究者と一緒に約1時間館内を巡り、展示物について詳しく解説を聞くことで地質について理解を深め、より身近に感じてもらうことを目的としたイベントです（福田、2024）。通常、「ガイドツアー」ではあらかじめ、「地質標本館展示解説登録者」に登録されたGSJの研究者から希望者を募り、自身の研究に関連する「テーマ」に沿って、研究者から直接、標本館展示物をより詳しく解説してもらっていますが、ここでは、GSJのアウトリーチ研修の一環として、2025年度入所の新人研究者による、地質標本館展示物の中の一点の解説に絞った、「一点解説」と称するガイドツアーについて報告します。

2. 当日の様子

2025年6月14日（土）に開催した「一点解説」（第1図）について、その様子を報告します。

今回、それぞれ異なるテーマで、3人の新人研究者による計3回の「一点解説」を行いました（第1表）。各テーマの募集定員をそれぞれ15名に限定し、ウェブサイト上の事前予約としました。急遽決まったイベントだったため告知期間も短く、また、「一点解説」自体が初めての試みであり、定員に満たないかもしれないという不安もありましたが、イベント当日までにすべて定員に達しました。やはりこうしたガイドツアーは、改めて、一般の方々にとって興味や関心を多く惹くものであると感じます。今回の「一点解説」を担当するのは新人研究者ですので、各回、まず専門分野、産総研を希望した理由等の自己紹介から始めました。

「地震波形と地震活動のはなし」の回は、雨澤が担当しました。ロビーの地震計を活用し、リアルタイム表示された加速度波形を解説するとともに、持参した振り子を用いて地震計の原理及び電磁式地震計について解説を行いました（第2図）。その後、ロビ一天井部の震源分布を用いて日本列島周辺の地震活動について解説を行いました。参加者はメモをとりながら熱心に解説を聞いており、特に地震活動の空間的特徴や駆動要因について活発な質疑応答がありました。

「海底の拡大のはなし」の回は、小野が担当しました。初めにスライドで自己紹介を行い、第2展示室の沈み込み

第1表 一点解説のプログラム。

時間	テーマ	解説者
13:30～14:00	「地震波形と地震活動のはなし」	雨澤勇太（活断層・火山研究部門）
14:30～15:00	「海底の拡大のはなし」	小野誠太郎（地質情報研究部門）
15:30～16:00	「火山のはなし」	池永有弥（活断層・火山研究部門）



第1図 2025年6月14日開催のポスター。

1 産総研 地質調査総合センター地質情報基盤センター

2 産総研 地質調査総合センター活断層・火山研究部門

3 産総研 地質調査総合センター地質情報研究部門

キーワード：地質標本館、イベント、一点解説



第2図 「地震波形と地震活動のはなし」の様子。解説は雨澤勇太。



第4図 「火山のはなし」の様子。解説は池永有弥。



第3図 「海底の拡大のはなし」の様子。解説は小野誠太郎。

から背弧海盆の模式図の説明を行い、その後チムニーの説明と物理探査による熱水鉱床の見つけ方の説明を行いました(第3図)。最後に太平洋の海底地形模型を使って海底の拡大の解説を行いました。なぜプレートの沈み込みが開始するのか等、難しい質問をたくさん頂きました。

「火山のはなし」の回は、池永が担当しました。まずスライドを使って自身の研究対象である火山の地質や岩石について簡単な紹介を行った後、第1展示室の日本列島プロジェクトマッピングにおいて、活火山の定義や分布に関する解説を行いました(第4図)。その後は第3展示室にある富士・箱根火山の立体模型を使ってそれぞれの火山の噴火様式や富士山の側火山の分布、箱根山のカルデラ地形などの説明と、それぞれの火山で噴出する岩石の特徴に関する解説を行いました。特に富士山の側火山が決まった向きに配列している理由や、横浜まで到達した箱根火山の火

碎流についての話の際には、参加者から納得や驚きの反応を頂きました。解説後は質疑応答の時間があり、特に岩石の色に興味を持たれた方が多く、いくつかの質問を受けました。

「一点解説」に参加された方々のアンケートでは、「興味深かった。30分では短い。もっと聞きたい」、「実際の展示物を、自分で見るだけでは分からることを教えていただけたので大変勉強になった」、「一点解説という試み、なかなか思った以上に面白い企画だった。今後も継続してほしい」などの好意的な感想を多く頂きました。

3. おわりに

「一点解説」を開催するにあたり、開催まで短い期間ながらも計画段階から実施に至るまで、多くの職員の方々に多大なご協力を賜りました。ここに御礼を申し上げます。ガイド役を務めた新人研究者、雨澤・小野・池永の3名は、なるべく分かりやすく解説し、参加者からの質問にも丁寧に答えるよう努めましたが、「従来のガイドツアーだけでなく、このような一点解説もよい」という声も頂き、今後様々な形での、来館者に喜ばれるガイドツアーを検討していくたいと思っております。地質標本館ではこれからも、地球科学の普及・啓発に努めてまいります。

文 献

福田和幸(2024)地質標本館イベント「ガイドツアー」開催報告. GSJ 地質ニュース, 13, 260-263.

FUKUDA Kazuyuki, AMEZAWA Yuta, ONO Seitaro, IKENAGA Yuya and SEGUCHI Hiroki (2026) Report on the event, "One Point Explanations" of the Geological Museum.

(受付: 2025年7月30日)